

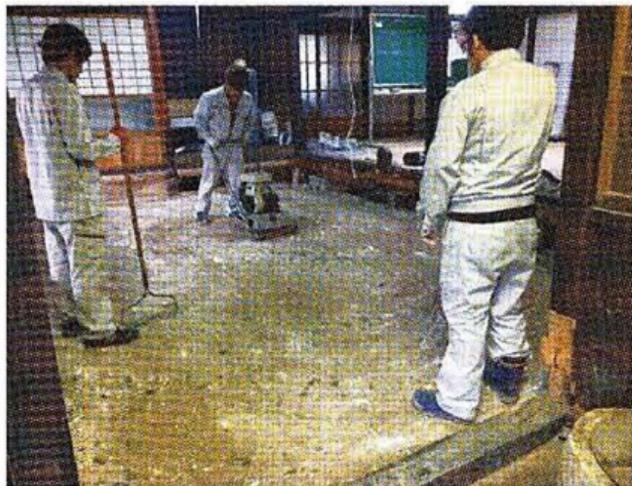
# ■ 過疎地活性化の拠点づくりへ古民家修復

## 広島工業大学

工学部建築工学科の川上善嗣准教授の研究室ゼミ生が、過疎高齢化が進む中山間地域で活性化の拠点となる

古民家の修復に取り組んでいる。地域行事もサポートしながらコミュニケーション力や社会実践力を身に付けている。

民家は築70年ほどの木造平屋で、空き家だったのを住民グループが周囲の田畑とともに譲り受け、人を呼び込む拠点にする計画だ。大学から車で1時間ほどの広島県廿日市市玖島にある。ゼミ生は2年前から修復に協力し、床材の張り替え、土壁の補修、土間の三和土づくりなどを行った＝写真。にがりと土の配合などを実験してから施工した三和土を卒論のテーマにした学生もいる。



ゼミ生は稲作を教わり、祭りなど地域行事の手伝いもする。学生が指導して高齢の住民がSNSで民家の現況を発信するなど、交流も深めている。